

# フランス教育学会研究懇話会 2016

日時：12月17日（土）9時半—17時半

場所：大阪大学人間科学研究科（吹田キャンパス）本館4階41教室予定

後援：フランス教育学会

## 企画趣旨：

フランスではバカロレア取得者が同世代年齢の8割に近づき、また取得者のうち8割近くが高等教育へ進む時代となった。このことから教育は大衆化したと言われているが、しかし中等教育は誰にでも平等に開かれたものになったとはいえない。この理由として、階層別に落第率に差があること、また、普通・技術・職業高校と進路志望と結果に社会・文化的差があることが数々の量的・質的方法による調査により指摘されている。

大衆化の裏で起きている階層化について、本セミナーでは、一つの大きな問題とされている中高接続に焦点をあてる。中学校における進路指導の問題と、適切な進路を選択しなかった（できなかった）がゆえに生じる、落第と進路選択の問題について、4人のフランス人招聘研究者からご講演をいただく。

## 登壇者とテーマ（逐次通訳有）：

9時半-11時：Ⅰ. 講師：セヴリンヌ・ショヴェル（パリ東クレティユ大学准教授）

「中学校の進路選択のメカニズムについて」

Séverine Chauvel : *Le chemin de l'école. Professeurs, élèves et parents face aux parcours scolaires*, *Politix*, 2015

11時-12時半：Ⅱ. 講師：トリストラン・プーラウェック（ナント大学准教授）

「庶民階層の進路選択の変遷について」

Tristan Poullaouec : *Le diplôme, arme des faibles*, *La dispute*, 2010, Chapt3.

12時半-13時：全体討論

14時-15時半：Ⅲ. 講師：ジョエル・ザフラン（ボルドー大学教授）

「中途退学者の復学への道」

Joël Zaffran, J.Vollet : *Comment faire pour refaire ? Education& Formations*, no.90, 2016

15時半-17時：Ⅳ. 講師：ファビアン・トリュオン（パリ第8大学准教授）

「サンドニ郊外の高校生の高等教育進学から卒業まで」

Fabien Truong : *Jeunes françaises Bac + 5 made in banlieue*, *La découverte*, 2015

17時-17時半：全体討論

大阪大学人間科学研究科教育制度学研究室

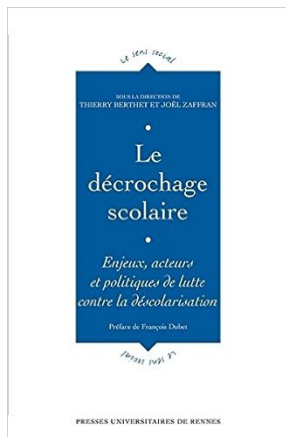
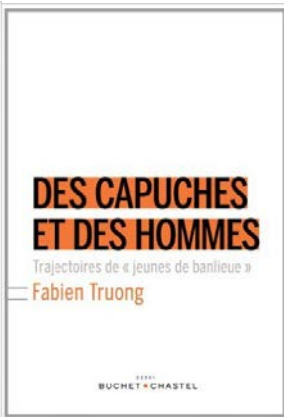
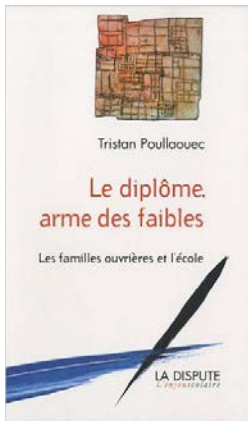
住所：〒565-0871 吹田市山田丘1-2

アクセスマップ情報：<http://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/access.html>

世話役教員：園山大祐、田川千尋

[tagawa.chihiro\(a\)respect.osaka-u.ac.jp](mailto:tagawa.chihiro(a)respect.osaka-u.ac.jp)

参加申込(12月5日から15日)いただいた方に詳しい教室・時間についてお返事させていただきます。



教育の大衆化は  
何をもちたか  
フランス社会の階層と格差  
園山 大祐 著



庶民階層の子どもの学業不振や学校への  
不道徳は、何が要因となっているのか。  
フィールドワークやインタビュー調査を行い、フランスと日本の現状を  
実証的に検証。フランス社会学理論の枠組みを採用しつつ、階層  
による教育の不公平を捉え、日本の教育の将来を展望する。

交通アクセス案内：●大阪モノレール彩都線「阪大病院前駅」下車 徒歩約 10 分

